

A Y - 1 1、B Y - 1 1

心理学に関する領域 ①

以下の事例を読んで、次の1から3までの小問に答えよ（問いの順に解答すること）。

小学校5年生の男児Aは、3年生の頃から、授業の課題や宿題ができないこと、注意が足りず反抗的な行動が見られており、このところ成績やテストの点数が落ちていることが問題となり、児童精神科に来談し、公認心理師が面接を実施した。

両親は、「これまでに発達の問題を指摘されたことはなく、就学時健康診断でも問題はなかった。」と報告した。ただ、Aがしばらく落ち込んでいて、何もやろうとしない時期が何度かあったとのことである。

Aの通知表を見ると、授業中のやりとりにもよく参加し、音読や算数にも困ることはなかった様子である。ただ、Aの書いたものは、とても学年相応とはいえないものだった。

ここ2年間、Aは漢字ドリルや書き物の宿題をしようとしなかったり、宿題を提出しなかったり、授業中ぼんやりしたり、ソワソワしたり、クラス全体の活動に参加しなかったりすることが重なり、担任も心配しているとのことだった。

Aは、だんだん学校が嫌いになってきており、特に書くことが嫌いだと言い、次のように話した。「問題を解いたり、実験をしたりはできるけど、それを書くのは大っ嫌い。頭が真っ白になっちゃう。先生はいつも僕がちゃんとやってないって言う。漢字を一生懸命書いても、『もっとちゃんと真面目に丁寧に書きなさい、枠の中に書きなさい。』って言う。僕が真面目に

やらないから悪いんだって。態度が悪いって。だから学校なんて、もう行きたくない！」

- 1 Aの精神医学的診断仮説を3つ以上あげ、それぞれ根拠を述べよ。
- 2 1の中で、Aの問題（状態）と関連性が高いと考えられる仮説を挙げ、その理由を述べよ。
- 3 2で述べた仮説を確認するためには、ほかにどのような資料が必要か、その理由とともに3つ以上述べよ。

(100点)

A Y - 1 1、B Y - 1 1

心 理 学 に 関 す る 領 域 ②

成人期以降の発達について、次の1から3までの小問に答えよ（問いの順に解答すること）。

- 1 成人期以降の発達の特徴について、エリクソンの心理社会的発達理論をもとに簡潔に説明せよ。
- 2 中年期危機と呼ばれる現象について説明し、具体的な問題を挙げ（架空でも構わない）、その解決法について論ぜよ。
- 3 老年期に、老化の過程にうまく適応すること（幸福な老い）をサクセスフル・エイジングと呼ぶ。こうした老年期の適応を阻害、あるいは、促進する要因にはどのようなものがあるか、論ぜよ。

(100点)

A Y - 1 1、B Y - 1 1

心 理 学 に 関 す る 領 域 ③

人権問題に係る差別(discrimination)について、次の1から3までの小問に答えよ(問いの順に解答すること)。

- 1 ステレオタイプ(stereotype)、偏見(prejudice)、差別のそれぞれについて、具体例をあげながら簡潔に説明せよ。
- 2 予言の自己成就(self-fulfilling prophecy)とはどういう現象か、具体例をあげながら簡潔に説明せよ。
- 3 小問1と2に基づいて、人権問題に係る差別が維持、または助長される現象について、個人(マイクロ)と集団・社会(マクロ)の関係性に着目しながら具体例をあげて説明したうえで、この問題を解決する方法について具体的に論ぜよ。

(100点)

A Y - 1 1、B Y - 1 1

教育学に関する領域 ①

中央教育審議会が令和3年1月26日に『「令和の日本型学校教育」の構築を目指して～全ての子供たちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学びの実現～（答申）（中教審第228号）』をとりまとめた。

「個別最適な学び」に関して以下の1及び2の小問に答えよ（問いの順に解答すること）。

- 1 「個別最適な学び」について、また、「個別最適な学び」が提唱された背景について説明せよ。
- 2 「個別最適な学び」が成立するための条件や課題について、また、「個別最適な学び」が今後の学校教育に与える影響について、それぞれ複数挙げて論ぜよ。

(100点)

A Y - 1 1、B Y - 1 1

教育学に関する領域②

統計的仮説検定に関する次の1及び2の小問に答えよ（問いの順に解答すること）。

- 1 統計的仮説検定の手続きについて、以下の語句を必ず1回は使用して（語句の初出時には下線を付すこと）、対応のない（独立な）2群の平均値を比較する場合を例に具体的に説明せよ。なお、2群の母分散は等質であると仮定する。

帰無仮説 対立仮説 検定統計量 有意水準 棄却

- 2 統計的仮説検定の問題点を3つ以上説明し、それらを解決する方法についてそれぞれ論ぜよ。

(100点)

A Y - 1 1、B Y - 1 1

教育学に関する領域 ③

教師（教員）の「多忙化」が問題視されているが、組織としての学校のあり方について、以下の問いに答えよ（問いの順に解答すること）。

- 1 教師の職務には、他の専門職に比して、多忙化につながりやすい特徴があると言われているが、その特徴について、複数の点を挙げて説明せよ。
- 2 学校の組織（職場）には、他の組織に比して、多忙を生み出しやすい特質があると言われているが、その特質について、複数の点を挙げて説明せよ。
- 3 近年「チームとしての学校」という言葉で、外部社会との関係づくりの重要性が指摘されるが、このような関係づくりが、どのように多忙化の改善につながるか論ぜよ。

(100点)

A Y - 1 1 、 B Y - 1 1

福祉に関する領域 ①

ソーシャルワークにおけるリサーチについて、次の1から3までの小問に答えよ（問いの順に解答すること）。

- 1 社会福祉調査を定義するとともに、社会福祉調査が持つ複数の役割について説明せよ。
- 2 ソーシャルワーカーが調査を実施するにあたって、倫理的に留意しなければならない事項を述べよ。
- 3 ある自治体において、その自治体に住む身体障害のある住民を対象に、ある仮説を検証すべく量的調査を実施することになった。自治体において、身体障害のある住民全員の台帳が用意されているとして、自由に仮説を設定し、その検証に必要なサンプリング方法、調査実施（質問紙配布）方法、そして設定した仮説を検証するに適した質問項目、分析方法をそれぞれ論ぜよ。

(100点)

A Y - 1 1、B Y - 1 1

福祉に関する領域②

要支援児童及び特定妊婦について、以下の1及び2の小問に答えよ（問いの順に解答すること）。

- 1 要支援児童及び特定妊婦について、それぞれ説明せよ。その際、どのような問題を抱えた人が支援対象となるのか、具体例を2つずつ挙げること。
- 2 要支援児童及び特定妊婦に対して支援が必要とされた社会的情勢を踏まえ、期待される支援と課題について、市町村が主体となる具体的な支援機関又は組織を3つ挙げてそれらの機能や役割に触れながら論ぜよ。

(100点)

A Y - 1 1、B Y - 1 1

福祉に関する領域③

高齢期の余暇活動について、次の1から3までの小問に答えよ（問いの順に解答すること）。

- 1 現代日本において、高齢期の余暇活動としては、どのような種類の活動が考えられるか、少なくとも4種以上の活動について説明せよ。
- 2 高齢期の余暇活動について、社会的に取り組む必要性が生じてきている現代社会の状況や実態について論ぜよ。
- 3 高齢期の余暇活動を推進するための日本の取組を3つ以上あげ、その内容と課題を論ぜよ。

(100点)

注 「余暇活動」とは、食事や睡眠などの生活の基本的活動、および生計の維持を目的とした仕事や家事などの労働以外の、自分で自由に使える時間における活動のことをいうものとする。

A Y - 1 1、B Y - 1 1

社会学に関する領域 ①

セクシュアル・マイノリティ（性的少数者）について、次の1及び2の小問に答えよ（問いの順に解答すること）。

- 1 「セクシュアル・マイノリティ」という概念とは何か、及び、「セクシュアル・マイノリティ」が差別される理由について、「L G B T」、「S O G I」という語句を必ず1回は使用して説明せよ。この語句の初出時には下線を付すこと。
- 2 「セクシュアル・マイノリティ」に関する課題や論点にはどのようなものがあるか。個人、社会制度、法律のそれぞれの観点から論ぜよ。

(100点)

A Y - 1 1、B Y - 1 1

社会学に関する領域②

コントロール理論は、犯罪・非行を説明するための有力な枠組みである。この理論について、次の1及び2の小問に答えよ（問いの順に解答すること）。

なお、2つの小問を通して、以下の語句を必ず1回は使用し（順不同）、その語句の初出時には下線を付すこと。

ハイリスク 質問紙調査 エビデンス インボルブメント（巻き込み）
退学処分 グラスミック 早期介入 ゴットフレッドソン

- 1 コントロール理論に含まれる「社会的ボンド理論」と「セルフコントロール理論」について、それぞれ説明せよ。
- 2 コントロール理論に立脚した少年非行対策について、現代日本の社会的文脈に即して論ぜよ。

(100点)

A Y - 1 1、B Y - 1 1

法 律 学 に 関 す る 領 域 ①（民 法）

Aは、事理弁識能力を欠く常況にあるとして、後見開始審判を受け、Bが成年後見人に選任された。その後、Aは、Bの同意を得ることなく、Cとの間で、Aが所有する自宅建物をCに1000万円で売却する旨の売買契約を締結した。売買契約締結の際、Aの意思能力に特段の問題はなかった。

Cは、Aに対して、売買契約に基づき、自宅建物の引渡しを請求した。次の1及び2の小問に答えよ（問いの順に解答すること）。

- 1 Aは、Cからの自宅建物の引渡請求を拒むことができるか。
- 2 売買契約締結時にAが代金のうち300万円を受領していた場合、Aは、Cからの自宅建物の引渡請求を拒むことができるか。

(100点)

A Y - 1 1、B Y - 1 1

法 律 学 に 関 す る 領 域 ②（民 法）

Aは、Bとの間で、Aが所有する甲土地を500万円で売却する旨の売買契約（以下「本件売買契約」という。）を締結した。Aは、Bから内金400万円を受領して、Bに対し、甲土地の所有権移転登記をした。その後、Aは、Bが残金の支払をしなかったため、本件売買契約を債務不履行により解除した。

次の1及び2の小問に答えよ（問いの順に解答すること）。

- 1 Bは、Aが本件売買契約を解除する前に、甲土地をCに売却していた。Aは、Cに対し、本件売買契約の解除により甲土地の所有権を取得した旨主張することができるか。
- 2 Bは、Aが本件売買契約を解除した後、甲土地をCに売却した。Aは、Cに対し、本件売買契約の解除により甲土地の所有権を取得した旨主張することができるか。

(100点)

A Y - 1 1、B Y - 1 1

法 律 学 に 関 す る 領 域 ③（刑 法）

Xは、繁華街の歩道で、Yから「生意気なやつだ。」などと因縁を付けられ、襟元を両手でつかまれ強く締め上げられた。Xは、息苦しくなり、このままでは気絶してしまうと思うとともに、怒りもこみ上がり、持っていた傘でYの大腿部を思い切り1回突いた。Yは、突かれた勢いで後ろに倒れ、歩道脇に設置されていた看板に後頭部を強く打ちつけた結果、Xの予期に反して死亡した。

この場合のXの罪責を論ぜよ。

(100点)

A Y - 1 1、B Y - 1 1

法 律 学 に 関 す る 領 域 ④（刑 法）

Xは、深夜、通りから少し離れた駐車場で車内にかばんが置かれた無施錠の自動車を発見した。Xがかばんを盗もうと考え、ドアを開けたところ、自動車の所有者Yが、「何をしている。」と大声で叫びながらXの元へ駆け寄ってきた。Xは、Yに捕まらないようにするためYの顔を殴りつけ、何もとらずに逃走した。Yは全治1か月の怪我を負った。

この場合のXの罪責を論ぜよ。

(100点)